

久多・百井 かがやき新聞

久多夏の里山まつり大盛況でした

7月30日(日), 久多夏の里山まつりが開催され, 約500名の来場者が久多の夏を満喫しました。無料でふるまわれた「いのしし汁」は大好評。準備していた200食が13時前にはなくなり, 「食べられなかった。」との声もありました。模擬店では, 栢餅, 赤飯, 地場野菜, 天然うなぎ飯, そうめん, 焼きそば, しそジュース, パスタなど, バラエティに富んだ出店があり, 来場者のおなかは十分に満たされたようです。ライブステージは「ラジオかと思った。」という声が聞かれたほど好演奏が繰り広げられました。まつり会場の設営も手伝った吉田省吾さん(ギター弾き語り)は「久多はええところ。来年もまた来たい」と話しておられました。

100名以上の参加があった「魚つかみ」は, 子どもたちの笑顔と歓声がいっぱいに広がり「来年もまたやりたい!」との声がありました。野菜収穫体験, 木工体験, 北山友禅菊摘み, 民具展示, 縄ない体験にも多くの参加があり, 久多の魅力を存分に感じていただけたと思います!

久多松上げに参加しました(愛宕大明神への献灯行事)

8月23日(宮の町, 下の町)・24日(上の町, 中の町), 松上げに参加させていただき, 町によって献灯のやり方が違う事, 時代によって変化した事を知りました。一昔前までは, 上の町は山の神を祀った山に上り「生木」に上松をあげ, 中の町は観音堂に上り堂前にある「生木」に上松をあげ, 下の町は万灯笼橋の前にある「生木」に上松をあげた, とうかがいました。

それが近年では, 上の町は山に上る途中の河原に, 中の町は観音堂前に, 下の町は西方のお地藏さん前に松明を献灯されており, 今年はその姿をみせていただきました。(各町とも献灯後にお神酒をいただきます)

今年は宮の町松上げに参加させていただき, 地松, 上松の作成, 15mの灯笼木を立てる作業を体験することができました。初めにお神酒をいただき, 地松に火を灯した後, 合図があり一斉に上松を投げます。「なかなか笠に上松が入らんことがある」と, うかがっていましたが, 村留学の参加者の保科さん(筑波大学/20歳)が一の松・二の松を見事に投げ入れました。松上げ終了後は, 保存会女性部の方々に作っていただいた, おにぎりをいただきながらの反省会。村留学の学生も10名以上参加して賑やかな会となりました。

花笠踊りに参加しました

8月24日(木)20時, 上の宮神社の社殿に各町の花笠が奉じられ, 中の町のヨリ棒の打ち合いの後, 先番(宮の町, 下の町, 川合町)の踊歌で花笠踊りを奉納します。その後, 男性は花笠を持って行列となり大川神社へ移動し踊りを奉納した後, 志古淵神社へ歩を運び, 神社の社殿へ花笠を奉じます。その間, 女性が輪となりやっさ踊りが披露されて境内は賑います。そして, 下の町のヨリ棒の打ち合いの後, 先番, 後番(上の町, 中の町)による踊唄の奉納が行われると, 神殿から「花笠踊りを奉納された志古淵大明神は大変喜んでおられる」と, 口上をいただき神事は終わりました。

伝統行事に参加させていただき感慨深い気持でしたが, 緊張もあり「お疲れ様」と妻から一言をもらい, ほっと一息つきました。踊歌練習をはじめとして, 花宿での花笠作り, 櫓の組み立てにも参加させていただき, 当日が近づくと一体感が高まる地域を感じました。そして, 久多の方々の伝統行事継承に対する姿を見せていただき, 学ぶことが多くありました。



ふるまい「いのしし汁」, たくさんのお客様に里山の「味」を楽しんでいただきました!



宮の町松上げの模様。各町の松上げ行事に参加させていただき, 久多の方々の火(自然)に対する敬意を感じました。



火が灯る花笠を持ち行列をなす。昔には, 子どもたちが笠をかぶり, 大人が手をひいて踊った頃もあったそうです。

京都市文化市民局 地域自治推進室
京都市北部山間かがやき隊左京区担当

南 佳孝

Mail: miqdc318@city.kyoto.lg.jp
久多出張所 tel:075-748-2020